



TITLE:

ボノボ(林原)・ヒト科3種比較研究プロジェクト(III.研究活動)

AUTHOR(S):

CITATION:

ボノボ(林原)・ヒト科3種比較研究プロジェクト(III.研究活動). 霊長類研究所年報 2012, 42: 73-74

ISSUE DATE:

2012-10-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/171610>

RIGHT:

- 3) Kitada R, Okamoto Y, Sasaki AT, Kochiyama T, Miyahara M, Lederman S, Sadato N (2011) Brain network involved in the recognition of facial expressions of emotion in the early blind. 12th International Multisensory Research Forum (2011/10/19, Fukuoka, Japan).
- 4) Okamoto Y, Kosaka H, Kitada R, Tanabe HC, Munesue T, Ishitobi M, Hayashi JM, Saito DN, Yanaka HT, Kochiyama T, Omori M, Wada Y, Okazawa H, Sadato N (2011) The EBA dysfunction in the ASD; as a "comparator" of self and other's action during reciprocal imitation. 第34回日本神経科学大会 (2011/09/17, 横浜).
- 5) Sato W (2011) Temporal profile of amygdala activities in response to faces and emotional facial expressions. International Workshop on "Perception and Expression of Emotions" (2011/07/25, Kyoto, Japan).
- 6) Sato W (2011) Temporal profile of amygdala activity in response to emotional facial expressions. International Society for Research on Emotion 2011 (2011/07/28, Kyoto, Japan).
- 7) Yanaka H, Saito DN, Kochiyama T, Fujii T, Kosaka H, Shimada T, Asai T, Okazawa H (2011) Inhibition load changes the brain activation irrespective of attentional differences: a functional magnetic resonance imaging study. 第34回日本神経科学大会 (2011/09/17, 横浜).
- 8) 佐藤弥 (2011) 動的表情を処理する心理・神経メカニズム. 第75回日本心理学会 (2011/09/15, 東京).
- 9) 岡本悠子, 小坂浩隆, 北田亮, 田邊宏樹, 棟居俊夫, 石飛信, 林正道, 齋藤大輔, 河内山隆紀, 谷中久和, 大森晶夫, 和田有司, 岡沢秀彦, 定藤規弘 (2011) 自閉症スペクトラムにおける EBA の機能低下-相互模倣時の自他の動作の比較に関わる神経基盤. 第13回日本ヒト脳機能マッピング学会 (2011/09/02, 京都).
- 10) 佐々木章宏, 河内山隆紀, 杉浦元亮, 田邊宏樹, 定藤規弘 (2011) 視覚運動的な動作表象を担う脳内ネットワーク. 第13回日本ヒト脳機能マッピング学会 (2011/09/01, 京都).
- 11) 吉田優美子, 田邊宏樹, 林正道, 河内山隆紀, 定藤規弘 (2011) 予告効果における補足運動前野を中心とするネットワーク: 機能的 MRI 研究. 第13回日本ヒト脳機能マッピング学会 (2011/09/01, 京都)

講演

- 1) 河内山隆紀 (2011/07/23) SPM による脳機能画像データ解析. 第14回日本光脳機能イメージング研究会. 東京・星陵会館.
- 2) 河内山隆紀 (2011/10/30) 脳を調べる新技術~脳活動の場所を特定しよう. 第26回国民文化祭・京都2011・明日の暮らしの文化展. 京都・けいはんなプラザ.
- 3) 河内山隆紀 (2011/11/20) 生体計測データの時系列解析. 東北大学大学院肢体不自由学分野セミナー. 仙台・東北大学.
- 4) 河内山隆紀 (2011/12/05) 機能的磁気共鳴画像法と嗅覚・味覚研究への応用. 応用脳科学コンソーシアム. 東京・アサヒビール吾妻橋ビル.

ボノボ (林原) 研究部門: 2011 年 8 月まで

ヒト科 3 種比較研究プロジェクト: 2011 年 9 月~

<研究概要>

A) 野生チンパンジーの行動調査

松沢哲郎, 山本真也

ギニア共和国ボッソウ村にて、野生チンパンジーの行動と生態を調査した。道具使用行動、祖母による子育て協力、集団での協力・役割分担、植物の薬用利用行動などを記録し、解析をおこなった。

B) 野生ボノボの行動調査

山本真也

コンゴ民主共和国ワンバ村にて、野生ボノボの行動と生態を調査した。食物分配を含む個体間関係、過保護事例を含む母子発達、集団での協力・役割分担などを記録し、解析をおこなった。

C) 野生ゴリラの行動調査

松沢哲郎, 平田聡

ルワンダ共和国ヴォルカン国立公園にて、野生ゴリラの行動を調査した。単雄複雌の構成である計3群を追跡観察し、個体間交渉や採食行動について記録すると同時に、エコツーリズムの現状について情報収集した。

D) 飼育チンパンジーを対象とした比較認知科学的研究

松沢哲郎, 平田聡, 山本真也

霊長類研究所の14個体、林原類人猿研究センターの8個体、熊本サルクチュアリの51個体のチンパンジーを対象に、タッチパネルモニターを用いた認知研究、非拘束型アイトラッカーを用いた視線パターンの記録、道具使用行動の実験・観察、個体間社会交渉の実験・観察などをおこなった。

E) 日本へのボノボ導入に向けた準備、資料収集、海外飼育ボノボ個体群の観察

平田聡, 山本真也

日本での飼育ボノボを対象にした認知研究を立ち上げる準備として、導入手続きの調査、海外でのボノボ飼育・実験研究の現場視察、飼育ボノボ個体にかんする情報収集をおこなった。

<松沢哲郎の業績については思考言語分野を参照>

<研究業績>

原著論文

- 1) Hirata S, Fuwa K, Sugama K, Kusunoki K, Takeshita H (2011) Mechanism of birth in chimpanzees: humans are not unique among primates. *Biology Letters* 7:686-688 (doi: 10.1098/rsbl.2011.0214).
- 2) Hirata S, Matsuda G, Ueno A, Fuwa K, Sugama K, Kusunoki K, Fukushima H, Hiraki K, Tomonaga M, Hasegawa T (2011) Event-related potentials in response to subjects' own names: A comparison between humans and a chimpanzee. *Communicative & Integrative Biology* 4(3):321-323 (doi: 10.4161/cib.4.3.14841).
- 3) Kano F, Hirata S, Call J, Tomonaga M (2011) The visual strategy specific to humans among hominids: A study using the gap-overlap paradigm. *Vision Research* 51:2348-2355 (doi: 10.1016/j.visres.2011.09.006).
- 4) Bril B, Smaers J, Steele J, Rein R, Nonaka T, Dietrich G, Biryukova E, Hirata S, Roux V (2012) Functional mastery of percussive technology in nut-cracking and stone-flaking actions: experimental comparison and implications for the evolution of the human brain. *The Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences*, 367:59-74 (doi: 10.1098/rstb.2011.0147).
- 5) Myowa-Yamakoshi M, Scola C, Hirata S (2012) Humans and chimpanzees attend differently to goal-directed actions. *Nature Communications* 3:693 (doi: 10.1038/ncomms1695).
- 6) Yamamoto S, Humle T, Tanaka M (2012) Chimpanzees' flexible targeted helping based on an understanding of conspecifics' goals. *Proceedings of the National Academy of Sciences USA* 109(9):3588-3592 (doi: 10.1073/pnas.1108517109).

総説

- 1) 山本真也 (2011) 利他・協力行動のメカニズムと社会の進化. *霊長類研究* 27(2):95-109.

その他の執筆

- 1) 平田聡 (2011) チンパンジーのメタ認知実験. p.128:96-104 発達.
- 2) 山本真也 (2011) チンパンジー・ボノボにみる「徳」の起源. p.7:20-23 こころの未来.

学会発表

- 1) Yamamoto S (2011) Evolution of altruism, reciprocity, and cooperation: suggestions from chimpanzees and bonobos. The 27th Annual Meeting of Japanese Society of Population Ecology. Symposium "The evolution of animal societies: generality and specificity of the systems" (2011/10/16, Okayama).
- 2) Yamamoto S (2011) Nature in Bhutan and its environmental education. Welcome Meeting for The Honorable Chairperson of the National Council of Bhutan and His Delegation (2011/09/30, Kyoto).
- 3) 平田聡 (2011) チンパンジーのメタ認知: 自身の知識状態の認知に関する実験的研究. 日本心理学会第 75 回大会 (2011/09/17, 東京).
- 4) 平田聡 (2011) 大人チンパンジーはどのくらいナッツ割りを覚えられるか. 第 14 回 SAGA シンポジウム (2011/11/12-13, 熊本).
- 5) 山本真也 (2011) 野生ボノボにおける果実分配～食物分配の進化・メカニズムにかんする再検討～. *Animal 2011* (日本動物心理学会 (第 71 回)・日本動物行動学会 (第 30 回)・応用動物行動学会/日本家畜管理学会 (2011/09/11, 東京).
- 6) 山本真也, 松沢哲郎 (2011) チンパンジー・ボノボにおける道渡り時の集団協力行動. 第 4 回日本人間行動進化学会 (2011/11/19, 札幌).
- 7) Yamamoto S (2012) Mechanisms of cooperation in our evolutionary relatives. The 3rd meeting of International Institute of Advanced Studies (2012/01/29, Kyoto).

講演

- 1) 平田聡 (2011/05/09) チンパンジーの心と行動. 京山長寿生きがいセミナー. 岡山県岡山市・京山公民館. 聴衆約 30 名.
- 2) 平田聡 (2011/07/18) チンパンジーの知性を探る. 第 27 回日本霊長類学会大会 公開シンポジウム「人とチンパンジーの間」. 愛知県犬山市・フロイデ. 聴衆約 200 名.
- 3) 山本真也 (2011/10/15) 協力社会の進化 国際高等研究所研究プロジェクト「心の起源」2011 年度第 2 回研究会 京都府相楽郡精華町・国際高等研究所. 聴衆約 30 名.
- 4) 山本真也 (2012/03/17) 要求に応えるチンパンジー、自発的に助けるヒト ～利他行動における他者理解とその進化～. 北海道大学グローバル COE「心の社会性に関する教育研究拠点」総括シンポジウム 心は「なぜ」、「どのように」社会的か? ～フロンティアとアジェンダ～. 東京都千代田区・学術総合センター. 聴衆約 200 名.